

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	新潟大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニイガタダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F115110105046
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	新潟県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	課題解決インターンシップI・II・III
	学部・研究科等名	工学部 協創経営プログラム
	担当教職員名・役職	尾田雅文・教授, 増田淳・教授, 長尾雅信・准教授, 小浦方格・准教授, 白川展之・准教授, 東瀬朗・准教授, 若林悦子・助教
	受講者数実績年度	令和5年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	25
	受入企業等数	18
	受入企業等名	GEC新潟情報サービス, 株式会社阿部工業, 株式会社新越ワークス, 株式会社シンテック, 株式会社フォーカス, 佐渡精密, ツバメックス, ナカムラ, ファジカ, 有限会社本間産業, 株式会社NS・コンピュータサービス, 新潟人工知能研究所, 他
	産学協議会の整理上の類型	4.タイプ3(専門活用型インターンシップ)
	キャリア形成支援活動の分類	1.長期(概ね1か月以上)のキャリア形成支援活動 7.高学年(大学3年次~4年次程度)又は修士課程学生を対象としたキャリア形成支援活動 10.中小企業でのキャリア形成支援活動 11.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のキャリア形成支援活動
上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	本科目は、課題解決インターンシップI・II・IIIから構成され、全体を通して概ね72日間(4日間/Week × 6week × 3ターム)の企業等の研修を行い、同研修先が有する課題の解決を目指す実務に携わることとしている。インターンシップ期間中、週に一日を学内研修日と設定し、指導担当教員による指導も併せて行っている。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	3.当該キャリア形成支援活動は、専門教育科目として実施している 4.当該キャリア形成支援活動は、必修科目として実施している 7.当該キャリア形成支援活動は、授業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部4年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 6単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	課題解決インターンシップI・II・IIIは、それぞれ2単位、計6単位の必須科目として開設している。協創経営プログラムにおいては、卒業研究に代わる科目として、同プログラムで開講されるカリキュラムの集大成的な科目として位置付けられる。

項目	確認事項	届出内容	
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規的教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している	
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容		
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップ等の就業体験の成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている	
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容		
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ等の就業体験実施期間中に、教職員が定期的に企業等へ赴き、学生と面談を実施している 2.インターンシップ等の就業体験実施期間中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している	
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容		
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	受入組織の状況(業種, 主たる業務, 従業者数, 社是)等について調べ学習. 事前に提示された課題の理解とそれに関する基礎知識の習得などの他, 受け入れ条件確認書, 誓約書記載内容の理解と作成を行っている.	
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	課題解決インターンシップIでは, 課題の内容と課題解決の計画を報告書として提出している. 課題解決インターンシップIIおよびIIIにおいては, 研修実施に関する報告プレゼンテーションを行い, また, 報告書を作成, 提出している.	
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	インターンシップ実施前においては, 指導担当教員と受け入れ組織担当者間における実施課題の調整. 実施中においては, 学内で週一のペースでの学生と教員のミーティングを行い, 受け入れ担当者に対してフィードバック. 課題解決インターンシップIIIにおいては, 受入組織を会場とした中間報告会を実施する他, 課題解決インターンシップIIIにおいては, 学内において, 受け入れ担当者を招いての報告会を実施している.	
	要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
		4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、キャリア形成支援活動の実施前後で回答を求めている 3.キャリア形成支援活動による到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
		4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
4-3.上記回答内容に関する詳細		研修日誌の作成と提出を基本とし、研修計画書、中間報告資料、最終報告書の提出。I・II・IIIそれぞれにおいては、ルーブリック自己評価シートの提出を求めている。	

項目	確認事項	届出内容
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	72日間以上(4日間/Week × 6week × 3ターム)の研修日の確保を基本としている。
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	課題解決インターンシップI・II・IIIそれぞれについて、24日間((4日間/Week × 6week)の実施を基本としている。ただし、受入組織、研修生、指導担当教員3者の合意に基づき、傾斜配分することは可能としている。(例えば、研修日を前半(例えば、課題解決インターンシップI)に多く実施し、後半(例えば、課題解決インターンシップIII)はまとめ作業に充てるなど)
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、就業体験実施期間中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	受け入れ組織開拓の一環として、説明会を独自に開催、実施している。また、新潟地域連携コミュニティー(https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niigata-community/)の場を利用して、本取り組みの紹介を実施している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2023/09/09_230T8001_ja_JP.html https://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2023/09/09_233T8002_ja_JP.html https://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2023/09/09_234T8003_ja_JP.html
問い合わせ先	大学等名 担当部署名 担当者役職名 担当者氏名 電話番号 メールアドレス	新潟大学 工学部工学科協創経営プログラム 教授 尾田雅文 025-262-7555 oda@ccr.niigata-u.ac.jp